

**平成 30 年度****社会人大学院(夜間開講) 講義受講コース**

社会人のために夜間開講されている大学院講義科目を聴講できる  
社会人聴講制度を活用したコースです。

時 間 : 19:00~21:00  
場 所 : 星薬科大学 新星館 2階 講義室  
認定単位 : 星薬科大学認定薬剤師認定単位 (G11) 1.5単位  
受講料 : 1講義 3,000円  
申込方法 : メール又はFAXで受講日(当日)の13:00までにお申し込みください。  
なお、お申し込みには以下の項目を明記してください。  
①受講希望日と講座の名称 ②氏名 ③フリガナ ④郵便番号・住所  
⑤電話番号 ⑥メールアドレス ⑦本学の卒業生のみ卒業年度 (④以降は任意)

【お申込み・お問合せ】

星薬科大学 薬剤師生涯学習支援室

〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41

TEL/FAX : 03-5498-5863

e-mail : shougaiyouiku@hoshi.ac.jp

U R L : <http://www.hoshi.ac.jp/home/nintei/index.html>

- 受講方法 : 1. 受講料の支払い  
受講当日に、本館管理系事務室(本館 1F 右側)前の券売機で3,000円分の証紙を購入し、本館教学系事務室(本館 1F 左側)にて「受講カード」を受け取り、記入のうえ、受講してください。
2. レポートの提出  
講義開始前に講義室受付(新星館 2F)で、レポート(受講票)(複写 2枚組)を、お受け取りください。  
講義終了後、受講中に講義の内容をまとめたレポート(2枚目の複写版)を、講義室受付に、ご提出ください。

注意事項 : 受講に際し、虚偽の記載または申告などの事実がある時には、履修許可を取り消すことがあります。

**【前期】**

講義日・講義室	講義名	講師	講義内容
5/8(火) 202・203 講義室	薬局におけるプライマリ・ケア	信川 益明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリ・ケアを考える上で重要な医療の捉え方</li> <li>・包括医療における薬剤師の役割とは</li> <li>・薬局はどのようにプライマリ・ケアを行うか</li> <li>・薬局はどこまでプライマリ・ケアを行うか</li> <li>・薬局はどのようにして生き残りをはかるか</li> </ul>
5/11(金) 202・203 講義室	神経外傷・変性疾患に対する再生戦略①	岡野ヅイム洋尚	脊髄損傷などの神経外傷に対する新規治療法の開発を目指した再生医学研究について最新の知見を紹介する。
5/15(火) 202・203 講義室	薬剤師に求められるプライマリ・ケア医(かかりつけ医)の役割と医療連携	信川 益明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリ・ケアを助ける医療連携とは</li> <li>・薬剤師と他の医療関係者との連携をどのように構築するか</li> <li>・プライマリ・ケアの推進と医療連携</li> <li>・医療連携システム推進のための方法論</li> </ul>
5/17(木) 202・203 講義室	循環器病学①	赤石 誠	循環器疾患において病態を解析評価することにより適切な薬剤を使用することが可能となる場合が多い。それらの病態の把握方法と薬剤の選択について概説する。
5/18(金) 202・203 講義室	神経外傷・変性疾患に対する再生戦略②	岡野ヅイム洋尚	動物モデルを用いた神経変性疾患の病態研究および検査技術の開発、新規治療戦略について述べる。
5/23(水) 202・203 講義室	精神医学①	野村 総一郎	薬剤師の知っておくべき精神医学の知識(精神医学総論、各論として統合失調症、神経症、うつ病など)について講義する。
5/24(木) 202・203 講義室	循環器病学②	赤石 誠	循環器疾患において病態を解析評価することにより適切な薬剤を使用することが可能となる場合が多い。それらの病態の把握方法と薬剤の選択について概説する。

5/30(水) 202・203 講義室	精神医学②	野村 総一郎	薬剤師の知っておくべき精神医学の知識（精神医学総論、各論として統合失調症、神経症、うつ病など）について講義する。
5/31(木) 202・203 講義室	薬剤師に必要な臨床検査の知識	村田 満	臨床検査、特に検体検査の基本とデータ解釈を学ぶ。最近の話題として遺伝子検査をとり上げ解説する。
6/6(水) 202・203 講義室	薬物依存	鈴木 勉	代表的な依存性薬物であるアルコール、覚せい剤、鎮静催眠薬、メチルフェニデート、さらに近年社会問題化している危険ドラッグや医療用大麻についても解説する。さらに、麻薬や向精神薬の国際規制と国内法についても解説する。
6/7(木) 202・203 講義室	前立腺疾患	中村 薫	高齢化社会に伴い、患者数が急増している前立腺疾患（前立腺肥大症）をとりあげて診断の進め方、薬物療法の実際、の解説を行う。
6/12(火) 202・203 講義室	循環器系疾患とEBM	林 同文	循環器系疾患とは、心臓を中心とした全身の動脈・静脈系の病気全てを示す。特に動脈硬化の原因となる、糖尿病や高血圧を含めた生活習慣病やメタボリック症候群なども含まれ、最も患者の多い専門領域の1つである。これらの病態だけでなく、治療薬における EBM（Evidence-Based Medicine）の考え方について薬学部学生として必要な知識を概説する。
6/15(金) 202・203 講義室	腫瘍と病理学	長嶋 洋治	腫瘍の定義、細胞学的特徴、がん遺伝子について概説する加えて病理学的研究の実例をあげて提示する。
6/20(水) 202・203 講義室	造血管腫瘍の治療	岡本 真一郎	造血管腫瘍に対する新しい薬物療法についてわかりやすく説明する。
6/21(木) 202・203 講義室	前立腺癌の診断と治療	中村 薫	年間の罹患数が98,000人に急増している前立腺癌をとりあげて、がん検診による早期診断および薬物・内分泌療法、手術・放射線治療の実際を紹介する。
6/27(水) 202・203 講義室	医薬品による、腎臓、肝臓、消化管、循環器障害①	上原 譽志夫	医薬品による腎障害、肝障害、消化管障害および循環器障害などを取り上げ、臨床症例を中心に多角的に最近の考え方を講義する。
7/5(木) 207 講義室	iPS細胞技術と遺伝子改変霊長類を用いた再生・疾患研究と革新的脳科学	岡野 栄之	中枢神経系の再生医学と疾患研究さらには先端的脳科学研究について、iPS細胞技術と遺伝子改変霊長類を用いた成果と今後の展望について判り易く解説し、双方向的な議論をする。
7/6(金) 207 講義室	①新規抗うつ薬の薬理作用と使い方 ②自分の性格	天野 託	抗うつ薬、と抗躁（そう）の薬理作用ならびに症例を用いた使い方を取り上げる。また、自分の性格について診断してみる。
7/11(水) 207 講義室	医薬品による、腎臓、肝臓、消化管、循環器障害②	上原 譽志夫	医薬品による腎障害、肝障害、消化管障害および循環器障害などを取り上げ、臨床症例を中心に多角的に最近の考え方を講義する。
7/13(金) 207 講義室	①抗精神病薬の使い方 ②ニューロサイエンスと精神病理学 ③「パーソナリティー障害」と「困った人たち」	天野 託	精神病理学について簡単に講義する。抗精神病薬の使い方、症例を用いて取り上げる。パーソナリティー障害の病型と病態について講義する。
9/11(火) 207 講義室	オピオイド鎮痛薬	鈴木 勉	WHO方式がん疼痛治療法を説明する。本法で中心的な役割を果たしているオピオイド鎮痛薬の種類が年々増加している。そこで、モルヒネ、オキシコドン、フェンタニル、メサドン、タペンタドール、ヒドロモルフォンなどの中等度から強度の痛みを持ちいる鎮痛薬、さらにトラマドールについても解説する

【後期】

10/3(水) 207 講義室	消化器疾患の病態、治療 ①	芹澤 宏	消化器領域において、日常臨床で遭遇する機会の多い代表的な疾患の病態生理と薬物を中心とした治療について講義を行う。上部消化管疾患では逆流性食道炎、胃炎、胃潰瘍およびそれに大きく関連するピロリ菌感染、下部消化管では感染性腸炎、および潰瘍性大腸炎/クローン病といったいわゆる炎症性腸疾患について述べる。
10/5(金) 207 講義室	外科病理学	稲山 嘉明	臨床医学における外科病理診断学の位置づけ、そのプロセスや意義を、実例をまじえながら概説する。
10/10(水) 207 講義室	治療薬学	山川 正	肥満の病態と最新の治療戦略
10/16(火) 207 講義室	呼吸器病学①	塩見 哲也	呼吸生理学の基礎と呼吸器疾患の病態生理を解説し、各種呼吸器疾患の治療における薬物療法の重要性を述べる。(慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎を中心に解説する。)
10/17(水) 207 講義室	消化器疾患の病態、治療 ②	芹澤 宏	消化器領域で実質臓器である肝胆道系の疾患について講義を行う。急性ならびに慢性肝炎(特にウイルス性)、肝硬変、急性ならびに慢性膵炎、さらに胆石症や胆道感染症を扱う。
10/22(月) 202・203 講義室	眼科	宮田 博	眼科薬物治療では、点眼治療が、効率が良く、全身副作用が少ないため、最も用いられている。点眼薬としては結膜炎の治療薬の処方が多い。合成抗菌薬、抗アレルギー薬、ドライアイの治療薬、ステロイド薬、非ステロイド抗炎症薬が用いられる。日本で失明原因第一位である緑内障は、薬物治療が主体であり、多種類の点眼薬が用いられている。点眼治療のほかには、近年血管内皮増殖因子阻害薬の硝子体内注射の適応が拡大した。症例数が多い白内障は手術治療が主体であるが、周術期は薬剤を補助として用いる。これら眼科の薬物治療の実際について述べる。
10/23(火) 202・203 講義室	呼吸器病学②	塩見 哲也	呼吸生理学の基礎と呼吸器疾患の病態生理を解説し、各種呼吸器疾患の治療における薬物療法の重要性を述べる。(肺癌に関して)
10/29(月) 207 講義室	糖尿病	山田 悟	糖尿病の病態と治療
10/30(火) 202・203 講義室	婦人科① エストロゲンを中心に	和泉 俊一郎	エストロゲンに関係する疾患の病態を生理と薬物療法も含めて解説する。
10/31(水) 202・203 講義室	消化器疾患の病態、治療 ③	芹澤 宏	消化器領域の腫瘍性疾患を扱う。悪性疾患を中心に食道がん、胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆のうがんの外科的および内科的治療について概説する。
11/9(金) 207 講義室	膵臓癌の病態と治療開発 ①	光永 修一	膵臓癌の病態と標準治療を解説する。
11/15(木) 207 講義室	神経症候学	波田 野琢	神経疾患は身体所見のとり方が重要である。本講義では所見からどのような病態が診断出来るか?解剖学的な病巣はどこか?について述べる。
11/16(金) 207 講義室	膵臓癌の病態と治療開発 ②	光永 修一	膵臓癌の病態と標準治療を考慮した治療開発について実例を用いて提示する。
11/19(月) 207 講義室	栄養	山田 悟	脂質異常症の病態と治療
11/20(火) 207 講義室	白血病の診断と治療	村瀬 忠	白血病について診断・分類と病態を述べ、最近の話題および薬物療法を含めた治療の基本的な考え方、また新規薬剤について論じる。

11/27(火) 207 講義室	腎疾患の病態と薬物	竜崎 崇和	主な腎疾患（IgA 腎症、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症等）の病態から薬物療法を考える。また腎機能に応じた薬物治療の留意事項も概説したい。
11/29(木) 207 講義室	パーキンソン病の病態・治療	波田 野琢	神経変性疾患の代表的な疾患であるパーキンソン病の病態及び治療について述べる。
12/4(火) 207 講義室	婦人科② ART を中心に	和泉 俊一郎	卵子をめぐる医療について薬物療法を絡めて解説する。
12/7(金) 207 講義室	治験における SMO、CRC の役割とその将来	北川 明	医薬品開発において重要な役割を担う治験において、治験の実施現場としての医療機関における、治験の質およびスピードの維持・向上のため、SMO（Site Management Organization）という新しい概念に基づく仕組みの活用が、その問題解決の切り札として期待されている。SMO の現状および問題点を整理するとともに本来あるべき SMO の姿を議論したい。